

4

鶴

進路指導部主任より

鶴

進

今回の鶴進では1月に実施した「総合型・学校推薦型選抜合格者報告会」と「2学年志望理由書講座」を特集しています。新入試になってから総合型選抜、学校推薦型選抜における募集枠は年々拡大傾向です。理由の一つとして、アドミッション・ポリシーに適った学生の入学が求められているからです。

一方、受験生側からすると出願時期が総合型選抜が9月1日以降、学校推薦型選抜が11月1日以降とずれることにより第一志望への受験機会が増えました。ただ、これらの入試方式の関門の一つとなるのが《志望理由書》の完成度の高さとなります。自分が学びたいことと、大学で学べることがいかにマッチしているか、を限られた文字数で表現しないといけません。2年生には今回の志望理由書講座を通じて身に着けたことを、自分の夢の実現に役立ててほしいものです。

4

鶴

総合型・学校推薦型選抜合格者報告会

1月29日(土)13時より総合型・学校型選抜合格者報告会が行われました。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、Zoomによるオンラインでの開催となりました。当日は、6名の報告者に1人10分程度の持ち時間で、事前に作成してもらった資料をもとに、入試概要、志望理由、努力した点、失敗談、小論文や面接・プレゼンテーションなどの対策、後輩へのアドバイスなどを発表してもらいました。それぞれ熱のこもった発表に1・2年生も真剣に聴いていました。今回は、発表を通して1・2年生が知っておくべき情報をまとめてみましたので、是非参考にしてみてください。

1・2年生が知っておくべき情報 (大学、学部、学科問わず共通していたポイント)



添削関係

- エントリーシートや志望動機は何度も書き直し、学校の先生や塾の先生に添削してもらう。
- 小論文は、塾で講座をとり、何度も添削してもらった。過去に出た問題を参考に関係するトピックを選んで書いた。
- 総合型選抜や学校推薦型選抜の第一関門は、まず書類などの一次選考。納得がいくまで、徹底的に作り上げること。また小論文は感想文ではないので、当然優劣がつく。勉強同様、取り組んだ分だけ力をつけることができる。

準備関係

- 並行して基礎学力到達度テストの勉強も取り組むため、早めに準備・対策を行う。
- 現代文（試験科目）と小論文の対策は、担任の先生(現代文担当)と徹底的に議論した。
- 進路指導部にある過去の先輩の受験報告書は面接や実技に役立つので目を通しておくこと。
- 先生や便利なサービスなど使えるものは何でも使う。
- 日頃から社会問題やニュースなどに興味を持って調べておくことが大事。
- 自身の学びたい学問についての社会情勢については、常にアップデートしなくてはいけない。面接での話のネタだけでなく、志望理由書・自己推薦書・エントリーシート等で必ず求められるもの。
- 多くの大学のオープンキャンパスに足を運ぶ。
- 多くの大学を調べる中で、この大学でなくてはならない理由を探す。
- 担任の先生には、推薦書などの書類を用意してもらう必要があるので、早めに連携をとること。
- 1日、2日で出来上がるものではないので、余裕を持って進める。
- 計画を立てる。特にプレゼンテーションの準備は時間がかかる。
- 夏休みの使い方がポイント。総合型・学校推薦型選抜が仮に不合格の場合、一般選抜となるため、並行して一般選抜に向けた勉強もしなくてはならない。（12月の学校推薦型選抜で不合格になってから一般選抜の勉強を始めるようでは、当然間に合わない。）

国際関係（外国語関係）

- 国際交流などの行事には積極的に参加すべき。
- コロナ禍で留学が出来なくても、ZoomPalや留学カフェ、オンライン英会話も武器となる。
- 1・2年生のうちに必要な外国語の資格(英検)は取得しておくべき。
- 3年生になるまで外国語検定試験の基準を満たしていなくて出願資格の面で苦労した。そのため、他にやるべき準備に手を加えられなかった、という反省も出ている。

自己アピール，長所

○部活動でも委員会活動など何か一つでも自信を持って言えるものがあるとよい。

→エントリーシートや志望動機，ポートフォリオ，自己推薦書，面接等で必ず役立つ。

○自分に自信があることを堂々と伝えられるようにする。

→謙遜して控えめにではなく，自己アピール，セールスポイントをしっかりと伝えられるかが大事。

○経験を積んでおく。

→「自分の力で成し遂げた！」と思える経験が自信に繋がり，書類や面接で非常に役立つ。

○失敗や挫折も経験しておくとうい。

→大学側は成功者を求めているのではなく，「大学で何を学び，学んだことをどう社会に還元できるのか」を期待しているため，失敗や挫折も含めてしっかりと成長し，意志が強く芯のある人材を求めている。

その他

○勉強が面倒だと思ったときは，好きな教科や簡単な問題から始める。

→息抜きの方法，勉強スタイルを早く確立した者が，時間を効率的に使うことができる。

○当初は，一般選抜のみを考えていたが，3年の9月に総合型・学校推薦型選抜を受験すると決意した。

→早めの準備に越したことはないが，大切なことは本気になって準備をし，時間を割くこと。

○総合型選抜を受験したが失敗した。それでも事前に学校推薦型や一般選抜に心構えをしていたので慌てずに受験できた。

→早い時期に合格することが理想だが，失敗した後にどうするかをしっかりと見極めて準備することで，落ち着いて事を進めることができる。受かるつもりでいて不合格通知後に，慌てて動き出してはすべて後手後手．．．。

○面接は，聞かれる内容をまとめたノート作りに力を入れた。2日に1回は面接練習をするなどマナーや言葉遣いを鍛えた。

→日常生活から言葉遣いも意識する。癖はふとした時に出るもの。面接官は友達ではなく試験官。

○評定値を上げるためにも定期試験は重要。

→進路はいつどのように変わるかわからない。後々に「評定があと0.1足りなくて出願できなかった」ということがないように，今のうちから一生懸命勉強し，将来の自分への出資と捉える。

○担任の先生や親に自分の考えを伝えることも大切。

→親御さんや先生の進路ではなく，自分自身の進路。周囲は協力者であるため，芯を持ってしっかりと自身の考えを伝えられるようにする。進路において，「とりあえず」・「一応」はダメ。覚悟を持って，自身の将来に向けて進んだ人から合格が近づく。



2 学年 志望理由書講座について

1月12日（水）に第2学年普通コースを対象とした志望理由書講座を実施しました。新型コロナウイルス感染症対策として，予め収録していただいた講演動画を各教室にてスクリーンに投影し，講座を聴講する形を取りました。今年度は第一学習社の講師である西原弘恵先生に書き方を一から指導していただきました。西原先生のテンポよく丁寧な説明により，志望理由書の書き方についてしっかりと学ぶことができたようです。それから1週間をかけ，過去（体験・経験），現在（自己PR），将来（仕事調べ・志望先調べ）について考えたり調べたりする時間を設けました。そして，1月19日（水）に「志望理由書初回（800字）」を実施しました。どの生徒も時間を目一杯使って，熱のこもった文章を書き上げました。第一学習社の方に添削をして頂いた答案には，目標とのマッチ度や構成や表記など，丁寧で実践的なアドバイスが書かれていました。生徒たちは添削された答案をもとに，2月16日（水）に実施した「志望理由書リピート（800字）」において，改めて文章を推敲しました。2回目の答案は3月15日（火）に返却される予定です。志望理由書について考えることは，自分の将来を見つめ直す大切な機会となります。この経験を生かして，生徒たちは自らの道を切り開いていってほしいと願っています。

1月12日（水）オンライン志望理由書講座の様子



1月19日（水）初回実施の様子

